

2022 年度事業報告書

特定非営利活動法人教員サポート Smile ういんず

1 事業の成果

(1) サポート事業について～増え続ける依頼と減り続ける活動費に対応する計画的なサポート事業～

年度当初は新型コロナ感染高止まりのまま、学校は工夫を重ねて感染予防対策を講じながら教育活動を展開していた。スクールサポートスタッフや教員業務支援員が配置され、消毒作業他事務的な支援は行政からの手も厚くなった。10 月後半からコロナ感染による教職員や児童の連続した休みが多数発生し、人手が足りない学校はひっ迫した。

学校サポート事業ではそんな学校をマンパワーで支援した。クラスサポート（延べ 48 校 171 コマ）、担当不在サポート（延べ 167 校 374 コマ）合わせて延べ 215 校をサポートした。クラスサポートは市に国からの補助金が入らず昨年比 3 分の 2 に激減した。学校からの依頼が増え続ける中、6～9 月の 3 か月で終了してしまった。その分が担当不在サポート依頼の増加に反映することが見込まれていたため、年度当初から計画的にコマ数を管理した。至急の依頼とコロナ感染によるキャンセルを繰り返し受けながらもこれまでで最高数のサポートをした。学校からは休まざるを得ない教職員の気持ちを軽くしてもらえたと言われた。サポーターは、マスク生活でコミュニケーションが十分できない子ども同士や担任との橋渡しに努め、適時に子どもを誉め、疲れている担任を支えながら温かく誠実にサポートを実施した。（毎月市教委経由で送付される学校からの「成果と課題」より）

活動費を確保するためにクラスサポート担当の特別支援課のみならず教育次長や庶務係長と話し合いを重ねたり、賛助会費や寄付金のお願いを繰り返し学校に呼び掛けたりした。事務局の経費を切り詰めながら活動費に回した。提供会員からもバザー等にさらに協力してもらい活動費を捻出した。

ねこの手サポート事業は、行政からの人的支援がある中で Smile ういんずへの依頼は低調だったが、運営サポートはピアノ、作曲、感想文審査など専門性を生かした 6 件を実施した。事務作業サポートは例年どおりの継続の依頼が 9 件あった。

(2) サポーターと研修について～サポーターの安全とやりがいへの配慮～

提供会員は事業年度末 64 名。コロナ感染症が 2023 年 5 月 8 日に 5 類変更するまでは学校内に学級閉鎖発生中はサポート中止を継続した。担任が休む時も学校の状況をサポーターに伝え、理解したうえでサポートに入ってもらった。マスク着用についても学校支援課と連絡を取りながら、学校の変化を見越して対応を決定し提供会員に伝えた。また対応者一覧表を作り、サポートの頻度や断りの回数を数え、適時適所に配置してやりがいを持てるよう配慮した。

提供会員の中には学習指導員や非常勤講師となって学校を支援する人もいた。人材バンクのように見込まれて市内外の講師不足の学校・民間教育団体から照会も続き、19 件中 12 件に応えることができた。

大切な研修の場である連絡会は、感染対策を行いながら 5 回実施した。保健室のサポート

が増えていることを踏まえ、現職の養護教諭の先生を講師に迎えてサポートに役立つ内部研修会を開いた。提供会員からは具体的にどうすればいいのかわかり保健室サポートに少し自信がついたと好評だった。また、情報交換では、提供会員からサポート時の困り事が共有され、通信等で学校に対応をお願いすることができた。

(3) 事務局の運営について ～チームで情報共有し、みんなで助け合って働く事務局へ～

事務局の役割分担が仕事分担表、年間予定、繁忙期予定、事務局 line、チーム line によって可視化され、在宅で仕事をしてもお互いの仕事内容や進捗がよくわかるようになってきた。サポート実施数を事務局全員で管理することで状況把握もよくできるようになった。その結果、忙しいときには仕事を手伝ったり、方策を考えたりしながら助け合って働くことができた。繁忙期にはアルバイトも依頼し、「PC 相談室」の情報専門家に助けを借りて、その時々の問題を解決することができた。在宅を基本として各自が仕事を進められるように情報機器や通信環境も次第に整ってきた。会議で集まる時には効率的に相談できた。

(4) 広報と情報交換 ～学校の未来を考え、応援する人を増やす広報～

当年度は市小中学校 PTA 連合会の推薦を受けロータリークラブで広報したり、TeNY テレビ新潟や日本テレビで活動の様子が放映されたりして県内だけでなく全国に当法人の活動を広報できた。その影響で東京、大阪、神奈川、長野など全国各地の現職教員や教育関係者から問い合わせを受け、オンライン面談なども実施した。また東京本社の民間会社 2 社からも動画インタビューや訪問を受けた。長野県の現職教員からサポート現場の視察の要請を受け、市内の小学校の協力を得て実施した。全国的に学校現場の人手が足りず、教員が余裕のない環境で必死に子どもと向き合っていることやそれを何とかしたいと思って動き始めている人がいることが分かった。今後も情報交換しながら連携していくことを話し合った。

また、中学校の部活動地域移行問題に取り組む市内の民間会社から相談を受けた。学校教育を取り巻く問題をもとに考え、応援する人を増やす芽を大切にしていきたい。

新潟市の教育次長はじめ人事課長、支援課長、保健給食課長、地域教育推進課長の皆さんと面談の機会を持ち、学校現場の困難と支援の必要性、当法人の活動と課題などを伝え、情報交換を継続した。施設課とも事務所問題で懇談した。担当課の特別支援教育課はもちろん教育委員会の皆さんと連携したいが、行政にはさまざまな制約があることを感じた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
退職教職員の実働を提供して小・中学校をサポートする事業 (学校サポート)	・小学校等の依頼を受けて担任等の不在時に学習等のサポートをする。 (担当不在サポート)	・2022年6月～ 2023年5月	・新潟市内小学校及び東西特別支援学校、沼垂幼稚園	41人	・サポートに入った学校の児童・教職員(171校)	998.5 千円

事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会の委託を受けて特別な配慮の必要な子どもを含むクラスのサポートをする。(クラスサポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月～2023年5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市内の小学校 	28人	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートに入った小学校の児童・教職員(48校) 	2263.44 千円
個人の教職員や教育団体の繁忙期をサポートする事業 (ねこの手サポート事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等の依頼を受けて事務作業に特化したサポートをする。(事務作業サポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月～2023年5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市内の幼小中学校 ・教育関係団体 	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートに入った学校や団体の職員(9校) 	46.8 千円
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育団体及び子育て団体の運営などをサポートする。(運営サポート) ・個人の教職員・子育て支援者の教材作りや事務仕事等をサポートする。(個人サポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月～2023年5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談して決定した場所 	11人	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートした教育関係団体(6件)個人(0人) 	53.3 千円
学校現場や教職員に役立つセミナー・イベントを行う事業	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー・イベント実施なし 					